

第1回 能登半島絶景海道の創造的復興に向けた検討会

議事要旨

日 時 : 令和7年2月3日(月) 10:15~11:45
場 所 : 七尾市勤労者総合福祉センター 多目的ホール
出席者 : (会場)
有識者委員 : 藤生委員長、片桐委員、刀祢委員、臼井委員、
竹内委員
行政委員 : 石川県 道路建設課、石川県 道路整備課、七尾市、
北陸地方整備局
事務局 : 石川県 道路建設課、石川県 道路整備課、
能登復興事務所、金沢河川国道事務所
(WEB)
行政委員 : 石川県 観光戦略課、輪島市、珠洲市、穴水町、
能登町、志賀町
事務局 : 石川県 奥能登土木総合事務所、
石川県 中能登土木総合事務所

議事概要(各委員からの主な意見)

<周遊観光の促進に関する意見>

- ・能登島や和倉温泉は大きな魅力の1つであり、エリア、ルートに入れる必要がある。
- ・国道249号から観光資源へのアクセス路も対象として検討する必要がある。
- ・石川県景観計画には、能登エリアも位置付けられているため、その内容と整合を図る必要がある。
- ・観光は滞在型へ移行しており、この地域にどのように留まらせるか検討が必要である。
- ・地域住民や地域活動団体、若者を巻き込み、かつ、担い手づくりにも取り組み、継続して地域が盛り上がる仕組みが必要である。

- ・震災を機に能登半島の観光を刷新すべきであり、ジオパークや国定公園から国立公園へ、珠洲市の奥能登国際芸術祭の拡大、2026トキ放鳥、空飛ぶ車の試行など様々な取組みがある。
- ・想定される絶景海道沿いには魅力的なオーベルジュがあり、民間を巻き込んで周遊観光を考える必要がある。
- ・世界農業遺産は重要であり、風景・食・文化・祭を掛け合わせて考えていくことが必要である。
- ・半島全体として一元的に風景写真等の情報を発信する体制づくりが必要である。
- ・能登半島絶景海道想定エリアは総延長約250kmと距離が長いため、エリアを3つ程度に分けて施策を進められるような活動団体、組織があるか把握する必要がある。

＜「道の駅」の集客強化に関する意見＞

- ・「道の駅」を拠点とした電動アシスト自転車による周遊の検討が必要である。
- ・内浦～能登島に「道の駅」・寄り道パーキングが少ないため、新たな整備が必要である。

＜サイクルツーリズムの活性化に関する意見＞

- ・いしかわ里山里海サイクリングルート of ナショナルサイクルルート指定に向けて、基幹ルートの検討が必要である。
- ・道路の復旧、復興を進める際に、別線ルートとなる場合は、旧道を自転車ルートとして活用 of 検討が必要である。
- ・サイクリストの受け入れ環境整備として、「道の駅」等の施設を拠点に、着替え・休憩スペースや自転車が故障した際のレスキューシステムなどのサポート施設等の整備を検討する必要がある。
- ・サイクリングに加え、トレイルやバイクツーリングイベントも考慮した絶景海道 of 検討が必要である。

＜魅力ある風景街道の創出に関する意見＞

- ・ 2027 年の日本風景街道の 20 周年に向けて、日本風景街道に登録すべく民間を巻き込んで試行していくべきである。
- ・ 日本風景街道登録には「道の駅」との連携が必要であり、「道の駅」の駅長等とともに登録に向けて検討する必要がある。
- ・ 隆起した海岸を、車を停めて歩けるような絶景を楽しめる立寄りスポットが必要である。
- ・ 震災遺構をいかに見せるか、見せ方が重要であり、ポケットパークの拡張、新設が必要である。
- ・ 特定公園内の景観を考慮した新しい風景を作っていく必要があり、地震後の風景を調査する必要がある。
- ・ 地震によって風景が大きく変化しており、ジオパークを想定した新たなジオスポットを設定し、震災前と現在の風景を比較できる仕掛けが必要である。

＜今後の検討の進め方に関する意見＞

- ・ ハード整備を促進していくためには、能登半島絶景海道のルートや施設整備の候補地等を具体的に検討していく必要があり、市町や地元住民の意見を聞きながら進める必要がある。

以 上